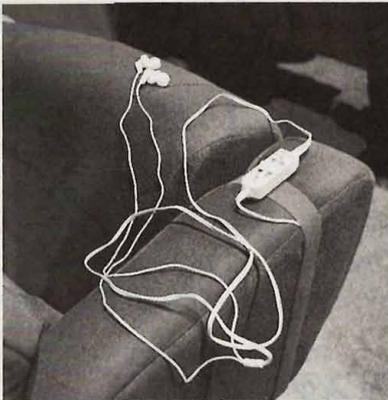


銀幕の感動 障害者も一緒に



④障害者向けの映画を上映する「シネマ・チューブキ・タバタ」車椅子の人や子どもを連れた人も鑑賞できるように配慮している⑤音声ガイドを聞くイヤホン・シートに一つずつ付けられているイヤホンも北区

字幕や音声ガイド 車椅子スペースも

目や耳が不自由な人が、字幕や音声ガイドで映画が楽しめるユニバーサルシアター「シネマ・チューブキ・タバタ」が9月に北区にオープンした。障害者向けの映画館は全国でも珍しい。障害のある人たちも映画を楽しんでほしい。そんな思いが込められ、上映が続いている。

北区の団体 田端に常設館

「チャリもスポンに剣が刺さったまま敬礼しています」

上映された喜劇王チャリンの映画「街の灯」の一場面。登場人物の動きを説明する音声ガイドがイヤホンから流れ、目が不自由な観客もそうでない人も、一緒に笑った。

視覚障害があり、盲導犬を連れて訪れた足立区の塚越豊さん(55)は「表情や情景を細かく思い描くことができた。これからいろいろな映画で泣き笑いでできるのが楽しみだ」と語った。

映画館はJR田端駅から徒歩5分の北区東田端2丁目。9月1日に開館した。映画には聴覚障害者向けに字幕がつく。視覚障害者は座席に付けられたイヤホンで、場面を説明する音声も聞くことができる。

「チャリもスポンに剣が刺さったまま敬礼しています」

視覚障害者の映画鑑賞を後押ししてきたボランティア団体の「シネ・ライツ」(北区)がこれまで障害者向けに映画情報をメールで送ったり、音声ガイド付き映画の上映会を開いたりしてきた。

代表の平塚千穂子さん(44)は「さまざまな人が映画を通じてもっと交流することができたら」と考え、常設の映画館をつくらうと決意した。2年前にいったん設けたが、今回充実させることを計画。ビル1階の店

舗を借り、資金は支援者からの寄付でまかなった。館名の「チューブキ」はアイヌ語で自然の光を意味し、自然と一体になって和らいでほしいとの思いを込めている。平塚さんは「みんなと一緒に楽しみ、考え合えるような映画館として続けていきたい」と話す。

字幕や音声ガイドの製作・普及に取り組むNPO法人「メディア・アクセス・サポートセンター」(中野区)によると、2015年度に公開された邦画・アニメ581本のうち字幕付きは11%で、音声ガイドに対応した作品は2%にとどまる。

一方、映画館はデジタル化が進み、スマホなどのアプリを使って音声ガイドが聞けるサービスなどがある。字幕がレンズ部分に映し出されるメガネ型端末が開発されるなど、障害者が映画を鑑賞する環境づくりも進んでいる。同法人の川野浩二事務局長(53)は「映画制作会社や映画館が障害者に対応することで市場の拡大につながり、普及が進むことになる」と話す。

鑑賞料金は一般1500円、中学生以下500円など。水曜定休。問い合わせは同館(03・6240・8480)。(山田知英)